

SON-DAY, AUGUST 25th, 2013 MORNING WORSHIP SERVICE

単立キリスト教会 マラナサ・グレイス・フェローシップ Maranatha Grace Fellowship [MGF] Since Jan. 18, 2004

牧仕: 菊地 一徳 (かずなり) 教会所在地: 〒381-0084 長野市若槻東条 541-2 フカサビル2F 長野クリスチャンセンター内

☆ www.mgf-jc.com ☐ mgfchurch@ybb.ne.jp / 電話、郵便物は菊地宅まで 〒381-2247 長野市青木島 1-32-17 ☎/Fax: 026-285-4713

礼拝黙想 Meditating on Worship

A 「あなたがたは自分のために偶像を造ってはならない。また自分のために刻んだ像や石の柱を立ててはならない。あなたがたの地に石像を立てて、それを拝んではならない。わたしがあなたがたの神、主だからである。」(レビ26:1)

「人の子よ。これらの者たちは、自分たちの偶像を心の中に秘め、自分たちを不義に引き込むものを、顔の前に置いている。わたしは、どうして彼らの願いを聞いてやれようか。」(エゼキエル14:3)

「むなしい偶像に心を留める者は、自分への恵みを捨てます。」(ヨナ2:8)

「偶像を造る者はみな、むなしい。彼らの慕うものは何の役にも立たない。彼らの仕えるものは、見ることもできず、知ることもできない。彼らはただ恥を見るだけだ。」(イザヤ44:9)

「偽りの神々は消え失せる。」(イザヤ2:18)

「ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。」(コロサイ3:5)

「ですから、私の愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。」(1コリント10:14)

「まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。あなたが主のことばを退けたので、主もあなたを王位から退けた。」(1サムエル15:23)

「・・・自分の力を自分の神とする者は罰せられる。」(ハバクク1:11)

「・・・あなたは心高ぶり、『私は神だ。海の真中で神の座に着いている。』と言った。あなたは自分の心を神の心のようにみなしたが、あなたは人であって、神ではない。」(エゼキエル28:2)

どんなものでも偶像になりうる

現在私たちが生きている文化の中にあっても、同じような現象が起こりえます。聖書が警鐘をならす、金銭がそれ以上の存在になりうることに、現代の私たちの多くは納得できるのではないのでしょうか。それは、人生を台無しにするほどの強引さと影響力を持つ神となり、それを礼拝する者の心を砕きます。しかも悪いことに私たちはあまりにも「欲の文化」の問題だけにとらわれてしまっている、それは「あの辺にいて、あの大金持ちの人たち」だけのことだと考え、最も根本的な真実に気づかないのです。つまりどんなものでも偶像になりうるし、実はすべてが偶像だったということ、です。

世界中で最も有名な倫理基準と言えバモーセの十戒でしょう。第一戒は「わたしは・・・あなたの神、主である。あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない」(出エジプト20:2~3)です。これに対する自然な疑問はこうです。「『ほかの神々』とは誰のこと？」 答えはすぐに見つかります。「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拝んではならない。それらに仕えてならない。・・・」(出エジプト20:4~5) つまり、それは世界中にあるすべてのものが含まれているのです。お金やセックスに依存するとそれ

が私たちにとって神のようになりうるのは想像に難くないでしょうが、実は人生においてどんなものも、神の代替としての偶像、つまり偽りの神になりうるのです。

最近聞いたある陸軍司令官の話ですが、彼は肉体の限界まで部隊にプレッシャーを与え、軍規にも忠実であろうと努めるあまり、その命令は限度を超え、部隊の士気は下がりました。その結果まさに戦闘の最中に命令系統が乱れ、多数の死者を出したということです。また、貧しさに喘ぐ幼少期を経験した女性の話も聞きました。彼女は成人し、結婚相手にまず経済的安定を求め、あるいはもっと豊かな結婚関係に発展したかもしれない相手には見向きもせず、金はあるものの愛のない結婚へと向かいしました。当然結婚の破綻はすぐに訪れ、彼女が最も恐れていた経済的な不安と葛藤の中に放り出されました。また、メジャーリーグの選手が、そこそこの成績で満足できず、殿堂入りをめざすうちにステロイドやドラッグに走り、身体だけでなくその評判さえも失墜させることがあります。「なかなかいい選手」よりも「まれに見る偉大な選手」レベルを求めすぎたゆえにです。やっと手に入れたと思ったすべての幸せの土台に問題があったからでした。どのケースも、良いと思われた土台がいつしか究極的なものへと変貌し、それに対抗できるすべての価値観をしのぐものとなってしまったのです。しかし、偽りの神々がもたらすのは、いつどんなときでも失望です。しかもそれは破壊的にもたらされるのです。

部隊に規律を、人生において経済的な安定を、あるいはアスリートとしての栄光を求めるのは間違っているでしょう

「教会【マラナサ・グレイス・フェローシップ（略称：MGF）】はキリストのからだであり、いっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた【MGF】は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。

か。全くそんなことはありません。しかし、以上のようなケースは、聖書で言う偶像について人々が想像しがちな思い込みを指摘しています。確かに偶像にのめり込みすぎるのは良くないかもしれませんが、大抵の場合むしろそれとは全く違うケースが見られます。つまり、良いことを追い求めさえすれば、それが私たちの心の深いニーズや希望を満たしてくれると期待するケースです。どんなものでも、私たちにとって偽りの神となりうるし、それは特に人生の中でも最も良いものの一つであることさえあるのです。

神をつくる方法

それではいったい偶像とは何でしょうか。それは、あなたが神よりも重要だと見なすもの、あなたの心と心のすべてを吸収するもの、そして、あなたが神からしか得られないものをそこから得ようとする、すべてのものを指します。

偽りの神とは、あなたの人生の根幹を構成するもので、それを失おうものなら、生きる価値さえ見出せない、と思われるようなものです。それはあなたの心を支配できる立ち位置にいますので、あなたの情熱、エネルギー、感情、経済力などを、何のためらいもなく注ぎ込ませることができます。それには、家族や子ども、仕事やビジネスの成功、人からの賞賛、あるいは面子を保つことや社会的地位を維持することも含まれるでしょう。また、恋愛関係、仲間との絆、競争社会を生き残ることやそのためのスキル、安心感や居心地のよさ、容姿端麗で頭脳明晰であること、壮大な政治的社会的ビジョン、倫理観、価値観に加え、クリスチャンにとっての宣教活動さえ偶像になりうるのです。誰かの人生を助ける、あるいは変えることがあなたにとって大きな意味があるなら、時にそれは心理学的に「共依存」と呼ばれますが、実はそれも「偶像礼拝」です。

偶像とは、それを見たあなたに「これさえ手に入れば、人生に意味を見出すことができる。私には、生きる価値がある、生きていていいんだ、生きていて良かった」と心底思わせる何かなのです。そういう関係性を表すものはいくつもあるでしょうが、一番的確だと言えるのは「礼拝する」という言葉ではないでしょうか。

昔から多神教徒たちは文字どおりすべてのものが神々だとし、それは単なる想像上の存在だけでなく目に見える形で表現されました。性の神々、仕事の神々、戦争の神々、金銭の神々、国の神々、それらはつまり、人の心や、人々の人生に神格をもって礼拝され仕えられるものはどんなものでも神になる、という単純な事実から成り立っていました。例えば、容姿の美しさは悪ではありませんが、もしそれを「神格化」し、一人の人生、あるいは文化において最も重要なものとしたらどうでしょうか。それはもはや、美にとどまらず、美の神アフロディテとして君臨しだすのです。そこにいる人々、すべての文化が常に容姿について葛藤し、過度のお金と時間をかけて得たその外見の美しさによって人格をはかるといった馬鹿げた行動をとるのです。もし、人生における幸せ、意義、アイデンティティーの土台を、神以外の何かに見出すなら、それはもう偶像なのです。

聖書に見られる偶像礼拝のとりえ方は非常に洗練されています。知的、心理的、社会的、文化的、霊的などの面から総合的にとらえているからです。ロマンチックな恋愛関係や温かい家族との絆、金銭、権力、達成感を追い求める欲求、あるいは特殊な社会層に地位を得ること、他者から信頼を置かれること、健康や容姿の美しさを維持すること、これらはすべて個人的な偶像と言えます。神によってしか得られない生きるための希望、意味、喜びをそこから求めようとするからです。

また、文化的な偶像も存在します。軍事力、進歩したテクノロジー、繁栄した経済力などです。伝統的な社会では家族、仕事熱心であること、義務、道徳やモラルが、また反対に個人主義が台頭した欧米文化では自己発見、自己実現などが偶像です。これら本来は良い目的が、実は社会においては不釣り合いな大きさと力を帯びるようになります。そういったものが私たちの安全で平和で幸せな社会を約束するのは、まず私たちがその価値観を土台として生きることを条件とするからです。

また、よく「イデオロギー」と呼ばれる、知的な偶像もあります。例えば19世紀終わりから20世紀初頭にかけて、もともと人間は善で、社会の問題はすべて教育の足りなさから来るというルソーの考えに大きく影響を受けたヨーローツパの知的文化人たちがいました。〈中略〉彼らは、部分的な真理だけを取り上げてさもそれがすべてを包括する真理かのように取り扱っていたのです。まるで、すべてが説明され、改善されうるかのように。しかし、人間の善の「すべてに懸ける」とは、まさしくそれを神として位置づけたと言っておかしくありません。

また、どのような職業においても、妥協できない絶対的な価値として偶像が存在します。ビジネスの世界では、究極的な価値、つまり利益のために個人的な表現は抑圧されます。しかしアートの世界ではその逆です。自己表現のためならすべてが犠牲になってもおかしくない世界です。しかもそれはいつか必ず認められる、という究極的な価値のもとになされるのです。これらが、人類に何よりも必要なものだと考えられて来たのです。偶像、それはどこにでも存在するのです。

(ティモシー・ケラー著『偽りの神々』より)

「子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。」
(1ヨハネ5:21) Ω

＜お知らせ Announcement＞

◆ 9月の午前礼拝 9/29 (日) 10:30～ ※BSキャンセル 9/27 (金) 夜

「教会〔マラナサ・グレイス・フェローシップ（略称：MGF）〕はキリストのからだであり、いっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」（エペソ1：23）。「そしてあなたがた〔MGF〕は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」（コロサイ2：10）。